

第4回小浜市地域公共交通会議 議事録

1 日 時 令和4年3月10日(木) 10:00～11:30

2 場 所 働く婦人の家 3階 大会議室

3 出席者 <委員>25名(代理出席1名)

川本義海会長、野村徳夫副会長、堂前存守委員、内藤直人委員、今村治義委員、岩崎育巳委員、北林荘八委員、森健次郎委員、治部淳委員、山崎正博委員、堂前裕美委員、富士健一委員、神戸英至委員、藤田義雄委員、伊藤秀幸委員、藤田靖人委員、清水雅彦委員、野村和司委員、坂本孝司委員、宮下宏幸委員、堤宗和委員(代理 福井県交通まちづくり課 廣瀬様)、東野克拓委員、寺本幸司委員、長谷川雅巳委員、金子正憲委員

<事務局>

角野覚課長、松岡靖洋課長補佐、高鳥徹也主査、吉村靖子主査

4 議事次第

(1) 開会

(2) 議事

(協議事項①)

小浜市地域公共交通計画(素案)について

(3) その他

(4) 閉会

5 配付資料

- ・次第
- ・資料1:小浜市地域公共交通計画(素案)
- ・委員名簿

6 議事

(1) 開会

【会長】

皆様おはようございます。年度末のお忙しい中、お時間いただきまして、ありがとうございます。前回2月3日に第3回の会議で、今日審議いただきます小浜市の地域公共交通計画の骨子案の中のところについて、たくさんの意見をいただきました。今回はそれを反映した計画案をご提示させていただいています。皆様には、事前に目を通していただいていると思いますので、また忌憚ないご意見をいただければと思います。よろしく願いいたします。

(報告) あいあいバスの事故について 大和交通 今村委員より経緯と対策の説明あり

(協議事項①)

小浜市地域公共交通計画（素案）について

【事務局】資料に沿って説明

【会長】

説明ありがとうございました。主に、前回いただいた意見を反映した修正後について、説明いただきました。これが素案ですので、今日いただいた意見をベースに、来月、市民の方々に見ていただくという段取りとなりますので、ぜひご意見をいただきたいと思います。

75ページから施策ということで、事業名と取り組みの主体、連携するところを入れていただいております。基本方針の次のところ、プロジェクトと書かれている中で、背景・ねらいがそれぞれ示されており、いきなり事業ではなく、考え方を紐解いた上で、具体的な事業や取り組み主体といった構成にしているので、そちらについても、なにかお気づきの点があれば、ご意見お願いいたします。

【委員】

内容に関しては、今までの会議で話し合ったことが盛り込まれていますが、これが来年度発表された後、会議に出席しているとすごく分かりやすいのですが、市民の方にどう伝えていくのかというのが今後の課題になると思うので、そこも併せて考えていきたいと思います。市民や使う人が理解して使えるようになればいいと思います。

【事務局】

ありがとうございます。計画を作って終わりだと我々も思っておらず、市民の方にこれからどうなっていくのかという、将来の姿が具体的に見えるような広報の仕方、広報誌等の宣伝もありますが、我々も地区に入って、直接お会いして説明させていただき、特に市民の方にも主体となっていただきたいところについて、ご協力をお願いするというようなかたちで取り組んでいきたいと思っています。よろしく願いいたします。

【会長】

100ページあるので、皆さんとはお話をさせていただいて、積み重なっている部分があるので理解できている部分がありますが、市民の方が見るとなると、なかなか大変だと思います。これのコンパクト版、今後どう考えてやっていくのか辺りが見開き程度で分かるものがあればという話もあると思います。パブリックコメントが来月に行われる予定となっていますが、どのようなかたちで行う予定でしょうか。おそらく広報誌には掲載すると思いますが、その他に地区での回覧等があるかと思います。個別での説明はなかなか時間が難しいと思うので、そこら辺の工夫できる部分はどうか。

【事務局】

概要版は作ります。そのあと、市民の皆様に主体となっていただくものについては、回覧、地区でのお集まりの際にお時間いただいて、ご協力をお願いするという形を取りたいと思っています。

【会長】

ありがとうございます。4月のパブリックコメントの時には、100ページのまま見てもらうことになりますか。

【事務局】

この資料を整理して、100ページよりは少し少なくなるかと思っています。

【会長】

概要版は最終的にパブリックコメントをいただいた上で仕上げ、それで色々な所にご説明にあがったり、共有したりすることでよいと思います。ただ、4月のパブリックコメントの際にも、完成版でなくてもいいので、概要版として、ある程度分かるものが併せてあるとよいと思いますので、対応いただきたいと思います。

【委員】

81ページ、市街地循環バスの導入検討のところ、これをひとつの起爆剤として、市民の方に1度は乗っていただくことで、バスの利便性や欠点など忌憚ないご意見をいただくようなかたちで、せっかく貴重な税金を使ってコミュニティバスなどの公共交通が導入されているため、市民一人一人が主役となるべきところであると思いますので、持続的な公共交通を目指すうえで、市民の人に乘っていただく仕組みづくりをこういったところを中心に考えられるといいと思います。

【事務局】

ありがとうございます。市街地循環バスの導入検討について、我々も有効ではないかと考えています。市街地循環バスを導入することで、アンケートのデータで病院に行った後に買い物に行くという回答がありましたので、その際に利用していただく。一番重要なのは、身近な公共交通として認識していただくことが非常に大事だと思っておりますので、そのご意見につきましては、参考にさせていただきたいということで、前向きに検討させていただきたいと思っております。

【会長】

ありがとうございます。81ページ、事業7にあたる部分で、これを調査の起因にしながら、今までに乗ったことのない人がこれきっかけに乗ってもらえると、数値目標に向かって具体的なものが示せるのではないかとのご指摘だと思いますので、次はそのような方向で検討できるかと思っております。

81ページの主体について、お店が関わってきますが、企業、関連団体に〇がついていないので、これは〇をつけるべきではないかと思っております。バスを使って来ていただいた方に、なにか特典をつけるといった関わり方ができるのではないかと思っております。運賃に関わることはできなくても、お店側の工夫や、ハード面の対応として、お店の前までバスが入ってくる等の協力ができるのではないかとと思うので、企業、関連団体に〇を入れていただきたいと思っております。

【委員】

97ページのあいあいバスの認知度の目標値が40%となっておりますが、気持ち的には50%以上の期待値があってもいいのではないかと思います。

ニュースで、自動車に頼っている県で福井県が43位くらいとなっており、歩かない県民となっていました。もう少し市として、例えば、日曜日はノーカーデーとか、法律を考えると厳しいですが気持ちとして、土曜日は奇数番号のクルマだけ、偶数の方は公共交通使ってくださいといった、市全体として盛り上げるようなことが、事務局からの提供として必要ではないかと思われました。

【事務局】

今のご意見につきましては、ごもっともであると思っております。事業の中で、モビリティマネジメントといったところで、ノーマイカーデーや、自転車や徒歩、公共交通を使っていただくといったことを挙げていますので、その中で力を入れていきたいと思っております。強制ではない、意識を変えていくことをやっていきたいと思っております。

【会長】

認知度の目標値は、もう少し高い方が望ましい気がします。知っているか、知っていないかということなので、乗ったことがあるといったところより、ハードルは低いと思います。

【事務局】

目標値40%をもっと高くした方がいいとのご意見について、下の*に書いてありますように、あいあいバスの認知度は、「市全体の路線行先等をおおむね知っている」「近くの路線等だけおおむね知っている」の回答を対象にしているため、全く知らない人を対象とするならば数値を上げてもいいと思いますが、路線や行先を知っている方を増やそうとしているところです。しかし、今のご意見につきましては、もう少し詳細にしていこうと思います。

【会長】

あいあいバスの認知度は、知っているか、知っていないかというレベルではないとのことですが、下の*まで見ずに判断してしまう可能性もあるので、工夫が必要になるかと思います。

市全体としてのキャッチフレーズ、市民の皆さんに示すようなものがあれば、より望ましいと思います。市としてどうだといったところが見えていないといったご指摘だと思いますので、今後検討いただきたいと思います。

【委員】

94ページの今後の進め方について、最初に「達成状況の評価」があり、そこに力を入れているように読み取れ、そのあとに「目標評価シート」がくる構成となっているため、評価をかなり重要視して進めていく方針となるのでしょうか。よくあるのは「目標評価シート」を「達成状況の評価」より上げるか、取り組み施策の前、75ページの前あたりに「目標評価シート」を持ってくるケースが多いと思いますので、ご確認させていただければと思います。

【事務局】

目標を達成するためというよりは、市民の方にいかに満足していただける、安心して乗っていただける公共交通を目指すというところでありますので、目標達成が先になったというのは、あくまでも終わった後の指標として設けているというところであります。目標の指標につきまして、市民の満足度を一番重要視していますので、順番や書き方については、検討させていただきたいと思っております。

【委員】

85ページのわかりやすい公共交通情報の発信、事業11について、あいあいバスのマップ時刻表が表示されており、不慣れな高齢者等にとってわかりやすいマップの作成とありますが、今も時刻や料金等が分かりにくいなと感じているため、どのような案があるか教えていただきたいです。地域ごとで、自分の使う路線をメインにした、分かりやすい、文字が大きい、ごちゃごちゃしていないマップがあればいいなと思います。

【事務局】

具体的な案は、これから決めていきますが、一例としては、地区ごとや個人ごとのお出かけマップができないかと考えております。福井県内においても、分かりやすい、地区または個人の方が利用する公共交通を具体的に挙げているマップを作成しているところもありますので、色々勉強をさせていただきながら、作っていきたいと思っております。

【委員】

ありがとうございます。利用する側の意識が大事だと思っており、マップがきっかけで利用しやすくなり、意識づけにもなると思うので、ぜひよろしく願います。

【会長】

ご意見ありがとうございます。マイ時刻表と言われる、それぞれの人が自分の家からだと何分のバスに乗ってといった、小さい財布に入るようなコンパクトなものを作っているところもあります。地区の方であれば、地区から出る時間が決まってしまうので、オリジナルのものができると思います。

しかし、それを誰が作るのかという現実的な問題があり、これを市役所の方が作れるのかという大変な話なので、できれば地区の方で考えていただきたいと思います。今のマップでも、例えば、公共交通利用促進の取り組みで、みんなと一緒にマップを見て考え、バスを使ってみるのもいいかもしれません。マップを作って終わるだけでなく、使いこなすために、ソフト面でこれをどう使うかといった場面を作ることを、できれば地区レベルで行えるといいと思います。

【委員】

進捗管理について、小浜市地域公共交通会議で行うと記載があるのですが、やり方として、施策をやって、目標値、施策についてまた住民に意見を求めていくイメージでしょうか。

また、78ページに「大手企業で任意の月1回の」とありますが、県の方では週1回で県民の皆様をお願いしているので、週1回にさせていただけるとありがたいです。

【事務局】

ありがとうございます。実施の期間について、施行させていただいて、その結果を毎年公共交通会議等でご報告させていただき、それに基づいた今後の考え方、それこそPDCAのような形になると思いますが、そのようなものをお示ししたいと思います。それから、企業への週1回公共交通利用の推進について、MMの中で進めていきたいと思っており、週1回にするのかは、企業の方のご意見を聞きながら、行っていければと思っております。

【委員】

77ページのモビリティマネジメントについて非常に大事だと感じており、学生さんの中でも、地区によって公共交通を頻度高く使っている子と、徒歩で学校に行ける等でそうでない子がいると思います。差がかなりあると思っています。バスや電車に親しみを持っていただくために、乗り方体験等は重要だと思いますが、バスや電車に乗ってどこかに行く、乗ること自体の楽しさを反映できると面白いと思うのですが、取り組み等はありませんでしょうか。

【事務局】

小学校によっては、あまり公共交通機関を使う機会が少なく思っており、今行っている具体的な取り組みとしては、小浜線の利用をしていただくために、子どもたちに公共交通機関を楽しく使っていただく、嶺南地域の各市町に呼び掛けて、遠足マップ（小浜駅から三方駅まで電車で行って、年縞博物館に行く等）を作っていただいております。公共交通を使っていただく1つのツールとして、遠足のモデルコースを作っていただいているところで、4月以降、嶺南市町の各小学校、中学校にお届けするという今取り組んでおります。

【委員】

利便性向上とニーズに対応するということは、公共交通機関にとって重要なことですが、そこを追求しすぎると、人口減少している地方自治体ではなかなか対応できない、財源も限られているので、今おっしゃられたような楽しさが、認知度の向上という部分では、子どもの時からバスに乗ってどこかに行くといったような取り組みが重要になってくると思うので、続けていただきたいと思います。

【会長】

ありがとうございます。利用を促進する上では、小さいときに慣れ親しんでいることや、思い出があることで、親としか行けないのではなく、自分たちだけでも動けるといったものや、目的地に行くことだけでなく、乗って楽しいと感じるような、クリスマス等のシーズン中に日常の中の特別感が得られるようなことで乗る機会を高めるのもありだと思います。事業者さんや行政だけでなく、地域の方々でもできると思います。そうすると、MMの取り組みが広がると思います。

【委員】

76ページの公共交通と送迎バスの連携について、小中学校のスクールバスや企業の通勤バスの空き具合を利用して、高齢者の外出手段を効率的に確保することですが、子どもたちについて、天気の悪い日に送迎を頼まれることがよくあり、学校の周辺で送迎車が込み合ったり、近くの店舗の駐車場にご迷惑がかかったりすることが多々あるため、天候が悪い日だけの利用ができるのか、また、企業の通勤バスは無料でそのような利用ができるのかといったところを、どういった方向性で連携を考えているのでしょうか。

【事務局】

ありがとうございます。公共交通計画の1つの背景として、公共交通や企業のバス、郵便局さん等、様々な企業の方がお持ちになっている輸送資源を総動員して、地域ニーズに合ったものが移動手段として使えないかという背景がありますので、今後企業の皆様等にご協力いただきながら、お話をしていきたいと思っております。企業の皆様のご都合がありますので、今具体的なお話はできませんが、今ある輸送資源をフル活用したいと思っております。

【委員】

ありがとうございます。新しくバスを運行することは財源として難しいと思うので、そういった今あるものを利用して協力していただくのは、考えとしてはいいと思います。うまくいくような進め方を検討してもらいたいと思います。

【会長】

ご意見ありがとうございます。スクールバスと一般の方々の混乗は所々でやられています。企業では、なくはないと思いますが、企業の都合もありますし、保険等のこともありうるので、今後研究する部分ではあると思いますが、地域にある資源を総動員してというのは、国も言っていることなので、色々な制度ややり方が提示されている部分もあるので、そこら辺も含めて、加味できると思います。あと、情報化も進んでいて、色々な空き情報とかを共有するチャンスが生まれてきている部分も積極的に使っていければ、完成度も生まれてくると思います。公共交通会議が毎年行われる中で、そういった動向や取り組みを含めて、可能性を探っていくことが大切であると思います。

【会長】

ありがとうございます。色々なご意見や提案をいただきましたので、いただいたものを含めて、素案に手を入れさせていただいて、計画案として、4月に予定しているパブリックコメントに進めさせていただきます。なお、お気づきの点がありましたら、早めにご意見いただければと思います。

協議事項は以上になります。

(4) 閉会

【事務局】

川本会長、会議の議事進行ありがとうございました。

また、委員の皆様には、慎重審議をいただきありがとうございました。

今回承認いただきました、公共交通計画の素案につきましては、本日ご意見いただきました内容を反映いたしまして、公共交通計画の案として4月にパブリックコメントを実施し、再度公共交通会議を実施いたしまして、策定に進めていきたいと思っております。今後ともよろしく願いいたします。

それではこれで、令和3年度第4回小浜市地域公共交通会議を終わります。ありがとうございました。

以上